

No. 782

企業
zoom up
大西印刷

データプリント事業を首都圏で展開

請求書、督促状、コンビニ払込票、受験票、点検通知など、顧客から預かった個別情報を1枚ずつ圧着はがきに印刷し投函するデータプリント事業を展開、首都圏を中心に顧客を増やしているのが(株)大西印刷である。

印刷から圧着・封緘・検品・投函まで一連の作業をすべて自社で行い、午前中にデータ入稿すれば当日の夕方には投函できる。毎日1通発送といった小ロットから依頼でき、A4サイズ圧着(A3 2ツ折)など種類も豊富で用途・情報量によって様々なパターンを使い分けることができる。1年前からフルカラー印字にも対応し、さらにチラシなどの封入物も一緒に送りたいとの要望から封書でのデータプリント事業も開始した。サービスの多様化と短納期・品質管理から、上場企業を中心にデータプリント事業の顧客は約250社を数え、売り上げの80%は首都圏に集中。さらに導入後の顧客離れも皆無に等しく、毎月コンスタントに増加している。「首都圏の大手企業はBPO(ビジネス・プロセス・アウトソーシング)への意識が高く、その一環として依頼するケースが多い。それに加えIT化によって情報を本社で一元管理する企業が多く、本社からの一括発注が増えたため」と、大西社長は分析する。

データプリント事業を手がけるきっかけは2003年、カーディーラーから自動車の点検案内の発送を依頼されたこと。順次最新設備を導入し、2007年にISO27001、2016年5月にはプライバシーマークを取得。静脈認証による工場の入退室、監視カメラの設置、クライアント運用管理ソフトウェアの導入などハード・ソフトの両面から万全のセキュリティ対策を顧客に見学してもらい不安を払拭することで、100%の受注につながっているという。

当社は、世界的な眼鏡の産地である福井県鯖江市にて1948年に創業した老舗企業。ビジネスフォーム(連続伝票)や一般帳票など帳票類の印刷に強く、地元の大手企業や金融機関を得意先と

「社内一貫生産によるスピード対応と安全・安心が強みです」と話す大西正通社長



しており、デジタル印刷機による短納期・小ロット、バリエブル(可変)印刷への対応など他社に先駆けた取り組みで強固な営業基盤を構築している。また、顧客の商品在庫を無料で預かるサービスも行い、ネット上で自社の在庫を管理でき必要な分だけ出荷依頼できる。このほか、製紙メーカーと共同開発したミシン目入り用紙(ミシン目が細かく、静電気による重送や紙詰まりが起きにくい)を製造するなど、差別化・高付加価値化に向けた取り組みが高収益体質を生み出している。

今後は、データプリント事業の売上比率を現在の40%から5年後には70%にしたいとしており、首都圏での営業強化を図るとともにその実績を元に全国展開を図る計画で、将来的には首都圏での工場新設も検討している。

データプリント事業の顧客からチラシや商業印刷物も一緒に発注する企業も増えるなど横への広がりも見せており、「お客様の要望に応えられるよう、設備やサービスを充実させて今日に至っている。事業のヒントは全てお客様から頂いた」と大西社長は断言。顧客目線に立ったサービスの提案で、新市場を開拓していく。

(取材・文/福井支店調査課 川村 昌幸)

会社概要

(株)大西印刷
 TDB企業コード: 390132323
 本店: 福井県鯖江市旭町2-2-8
 東京営業部: 東京都港区浜松町2-7-18
 電話(本店) 0778-52-2121
 (東京営業部) 03-3434-2100
 大西正通社長
 設立: 1967年1月
 資本金: 1000万円
 事業内容: 印刷業
 年売上高: 約3億9071万円(2016年3月期)
<http://www.ohnishi-p.co.jp>